【町長】

通告順	6	質問議員	久保議員
質問項目	『除雪組合』を作り、除雪の空白地帯を作らない。		
質問内容	降雪の日時や量は、年度前の予算化の時期には分かりません。過大な投資をしても、過少に抑えても、現実の降雪とミス・マッチをすれば、どちらも町民の不利益になります。そこで役場の「インフラ」と、民間業者の「技術」と、町民の「声」の組合せによる、きめこまやかな機能と目配りを持ったオールぬまた『除雪組合』を作り、除雪の空白地帯を作らない事業が効果的です。 1問 『除雪組合』の設立が必要ではないか。 考えられる構成員は、「役場」、「町内で重機による除雪や、屋根雪下ろしなどすべての業者」、「融雪溝管理運営協議会」、「自治振興協議会」など。 意見や情報の交換をするタイミングは、「降雪シーズンの前後」、役場が大雪などの警報を発令した直後や『大雪対策本部』などを設置した時。 2問 『除雪組合』による情報の共有で、公平で、きめこまやかな除雪を。 ・次の高齢者世代などの屋根雪除雪助成＝不幸を繰り返さないために。 ・除雪車に付いたシャッターで通過後に左右にこぼれる「置き雪」を除去。 ・融雪溝ルールの見直し。例えば「雪が30cm降ると、排雪する。」など。 ・公営住宅の利用者への除雪助成金は年齢基準ではなくて、棟ごとに。 ・町民が担当の開発局や土木現業所と直接に意見交換をする場を作る。 3問 空き地を、雪の置き場にする有効利用で、排雪の負担を軽減。 雪の処理のより大きな負担は、除雪よりも排雪です。約10年前に、排雪の負担を軽減するために数個の巨大な融雪溝を作る議論をしました。しかし、当時も今も、経費がかからずより効果的なのは、町民が近い距離で排雪ができる雪の置き場『スノー・プール』です。ゴミ集荷システムのように、町内会ごとの空き地を活用した『スノー・プール』に町民や業者が雪を堆雪し、定期的に役場が雪を河川敷などへ移動し排雪するシステムが効果的です。 以上、豪雪地帯の交付税の割増し算入の恩恵を町民に還元し、除雪業者の持続的な新規参入を促し、長く住みたくなるまちづくりを目指しましょう。		

除雪車シャッターで「置き雪」を除去。

▼2009年1月16日　毎日新聞

道開発局

「置き雪」除去の実験

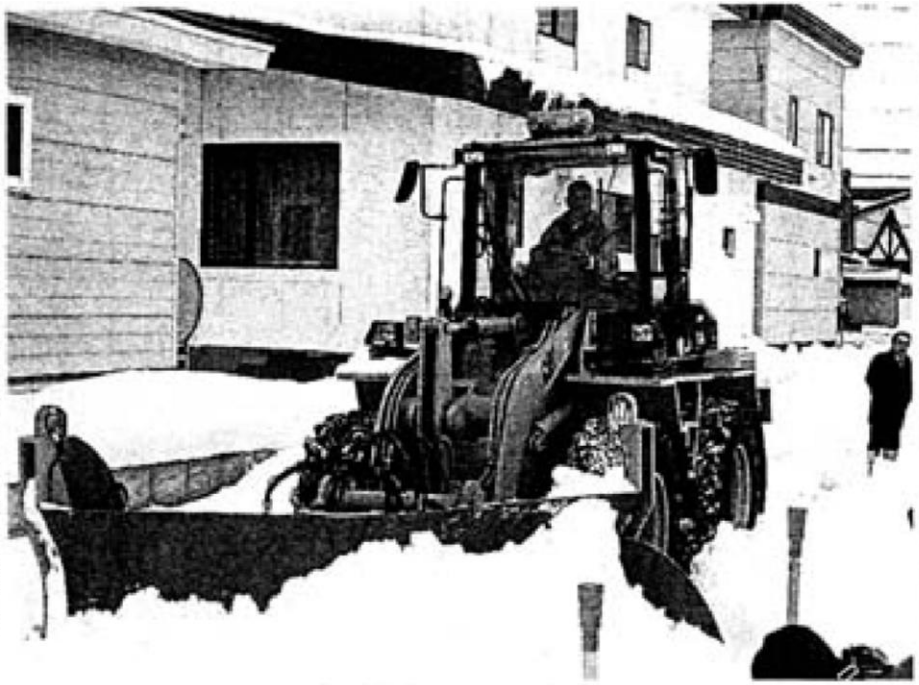
美幌の住宅街　新型除雪車で検証

北海道開発局は除雪車が通過した際に左右に雪がこぼれる「置き雪」を減らそうと、新型除雪車（8トン）による実験を、網走管内美幌町の住宅街をモデル地区で始めた。狭い場所でも雪を除去できるかなど作業効率を検証する。

置き雪は、核家族化と高齢化の進展とともに苦情の種になっており、特に住宅街では「自宅前の置き雪が氷の塊になり、重労働を心配する高齢者が増えている」（美幌町）。

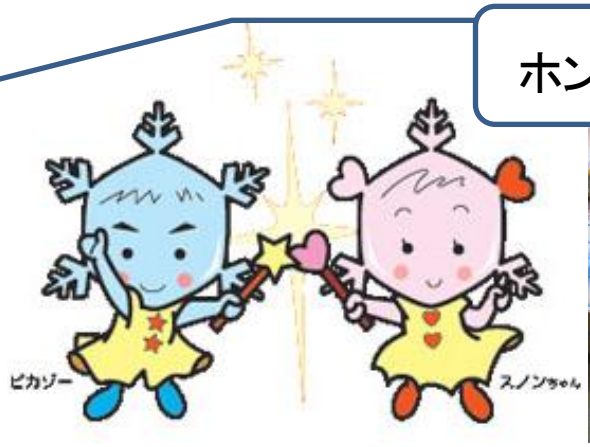
除雪車は旭川市の機械金物製造会社「オノデラ」が開発。雪を抱える正面の刃（ブレード）の両側の端に取り付けた「シャッター」が雪が置き去りになるのを防ぐ役目を果たす。住宅街の壁や塀際など狭い場所でも楽に作業ができるという。

実験は14日から2月13日までの1カ月間。開発局はデータを報告書にまとめ、豪雪地の自治体に提供する。【渡部宏人】

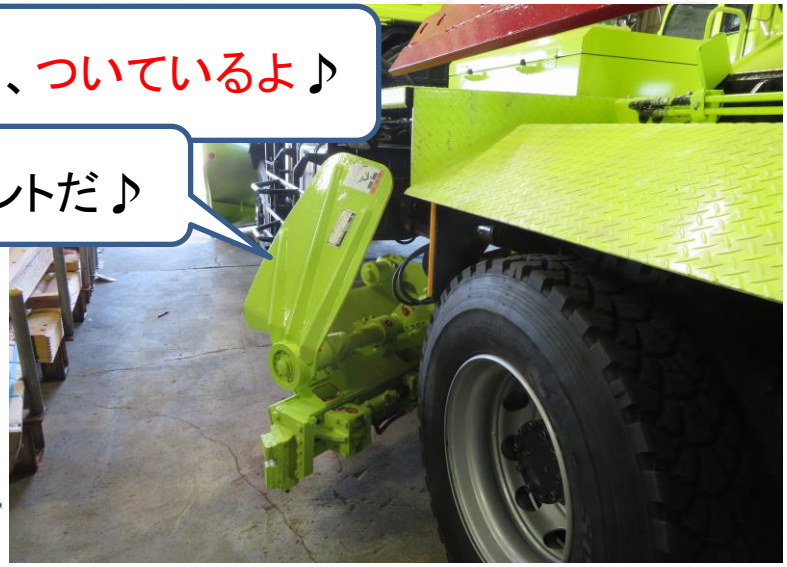


置き雪の解消などを目的に開発された新型除雪車＝網走管内美幌町で

すでに開発局の除雪車にも、シャッターは、ついているよ♪

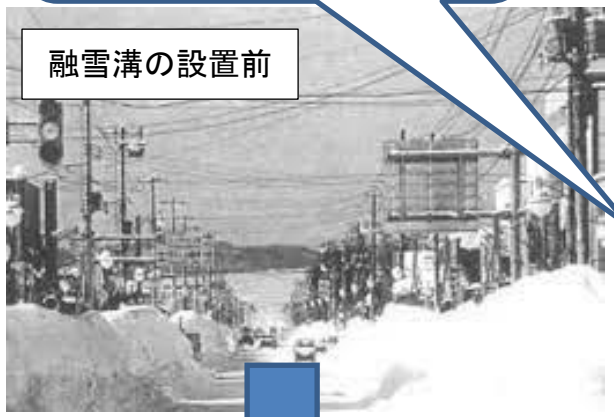


ホントだ♪



高齢化時代の融雪溝の課題は解決されたか？

除雪車のシャッターを活用すれば解決か？



雪を入れる住民パワーはいつまで？

2003年2月1日　融雪溝の利用者アンケート

『沼田融雪溝の維持管理における住民参加について』（抜粋）札幌開発建設部 深川道路事務所 ○近江 隆洋
竹本 勝美
沼田町役場 建設課 谷 口 勲（それぞれ当時）

＜除雪作業に関する要望・課題＞

●道路の雪まで民間の人がはねるとは少々おかしいと思います。歩道の雪はそんなにない（４０代男性）。
●車道の雪を処理しなければならず、これまでの３倍は時間がかかる（男性・年代 不明）。
●除雪した雪を融雪溝の上に置いて行かないでもらいたい（４０代男性）。
●自宅の前だけの除雪ならとても良い融雪溝 。しかし国道の固い雪を排雪するのはキツイ（２０代女性）。
●老人家庭です。現在の高齢化社会を考えないで役所の考えだけで発想した処に無理がある。やがて雪を入れること出来ない家庭が出来ると思う（７０代以上男性）。

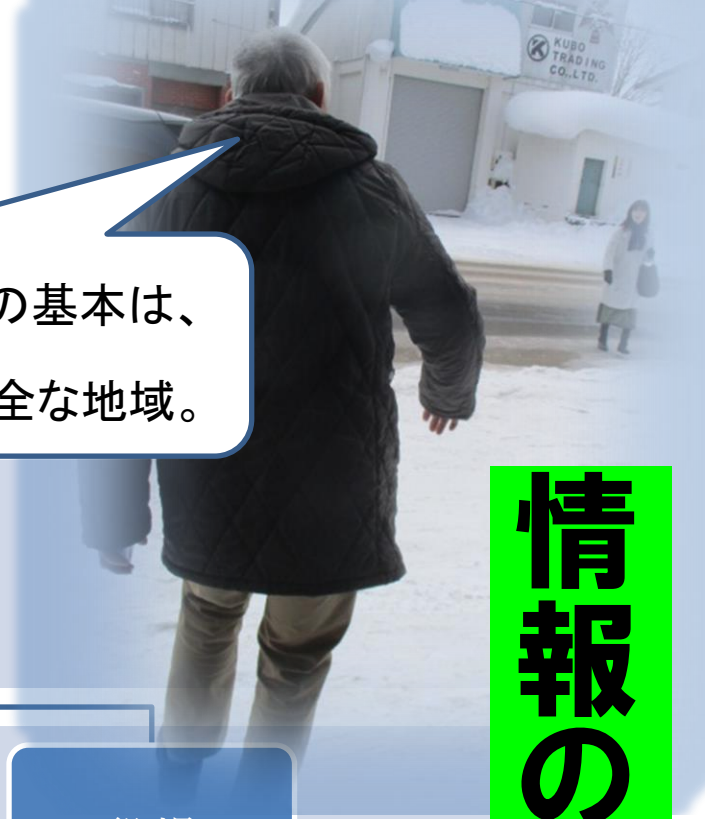
＜まとめ＞

住民の投雪に関する問題が大きいことを示した。融雪溝は、地先住民の協力が前提で整備されているが、処理能力、交通安全対策、蓋の構造などに満足できていないため、何らかの対策が必要であると考えられた。処理能力に関しては、車道及び歩道を前提として整備しているが、実際の排雪は民地の雪も投雪されているため、降雪量によっては、処理能力を超える場合があり、沿線住民の協力が必要である以上、ある程度民地の雪も処理できることが望ましいと考えた 。また、性質上ボランティア・サポートにはならないが 、除雪器具などの貸与、災害保険の費用負担の検討も必要だということを提案したい。特に災害保険の導入は、平成１４年１１月に開催された 「沼田融雪溝管理運営協議会」総会での要望事項であることから、今後、関連市町村への聞き取り調査などを行い、検討する必要があると考えられた。

流・融雪溝施設は地元の協力があって成り立つものである以上、沿線住民が作業しやすい環境を第一に考え運用していくべきと考える。公共施設の維持管理については 管理者単独での運用管理ではなく、地域住民参加の意識高揚が図られるような措置を講じて行く必要もあると思われる。

最終的に 沼田町除雪組合

「歩いて暮らせるまちづくり」の基本は、
除雪が行き届いた安心＆安全な地域。



情報の共有！

個人では持続可能が厳しいのなら・・・

有機的に深化

地域力

除雪する人を育てなければ、住む人がいなくなる。

町民　民間業者　役場

国道・道道・町道
わけへだてなく♪

融雪溝管理運営協議会　自治振興協議会　開発局　土木現業所

・社会福祉協議会の見守りサポート「はあとふる沼田」も、活用。

・盲点は、「次に高齢者になる世代」。そこで事故が起こりやすい。

除雪難民を、撲滅！